

今後の子育て支援に関する検討について

< 11月18日開催「岡山市総合政策審議会保健・福祉部会」の内容 >

(1) 議題

良質で持続的な保育サービスが提供できる体制づくり(公立保育園と私立保育園の役割)

(2) 資料

別添のとおり

(3) 主な意見

- ・ 核家族化により育児に悩む保護者が多く、虐待をはじめとしたいろいろな問題もある。保育園はそういった問題にも能動的に関わるべきであり、公立保育園の方が、児童相談所等関係機関や地域との連携が取りやすいのではないかと。保育士の平均年齢は約10才違うが、これは、保育の質に関わってくる。必ずしも人件費が高いのが悪いと考えるべきではない。金額的なものだけを単純比較して、民間でできるものは民間でという考え方には反対だ。
- ・ 公立保育園は地域づくりにおいても重い大切な役割を担っている。岡山市の保育の特色をどう出していくかということも考えなければならない。
- ・ 入園児童が増えることによって保育士の負担が増えないよう保育士を確保して欲しい。市の財政が破綻することなく、将来にわたって良質な保育を提供していくためには、ある程度は民営化もやむを得ない。半分もやるのではなく、ある程度はやっていく。そこで行政が力を発揮して、いい形で指導したり、お金を出したり、公私立の保育士が交流・研修したりすることで、子どもが被害を受けたり、保護者が不安を感じたりしないよう、徐々に移行できるよう進めて欲しい。
- ・ 延長保育や休日保育など保育の多様化が進むことで、保護者の育児放棄につながらないか心配である。家庭と保育園がそれぞれどう子どもに関わるべきなのか留意しなければならない。

民営化といってもどこにでも任せればよいというのではない。岡山市が研修、評価、監督、指導をしっかりと行いながら、民間活力を導入しなければならない。

民営化による節減額は、乳幼児医療費等の施策の充実に充てて、多くの子どもたちに回るようにしてほしい。

12や15の公立保育園を民営化しても岡山市の保育は大丈夫。いっぺんにとは思わないが、3から4園くらいは民営化をやっていくべきだ。残った公立保育園も、調理については民間委託を進めるべきだ。

- ・ 延長保育などは当面は柔軟な運営や迅速な対応ができる私立保育園が主体的に担っていくべきだといわれるが、むしろ経費がたくさんかかっている公立保育園こそ柔軟、迅速な対応をすべきであり、それができていないのはなぜなのか。

運営費の差だけ公立がより良い保育ができていいるのなら、私立にそれだけ補助を増額してレベルをそろえていくべきだが、保護者負担が一緒なのにももしも民間が選ばれているとしたら、やはり民間に委託していくことが必要ではないか。

- ・ 保育の均質性にこだわってきたことが、かえって公立保育園の特色を失わせ、地域のニーズに答えられていないことにつながっているのではないか。本来公的なサービスであれば、そういったところに迅速にいち早く対応し、先導的、創造的なサービスを組み立てていくという役割があるはずだ。

保護者が保育園を選ぶ際には、公私立に関わらず、近くて通いやすいことやより良い保育内容、魅力的で熱意のある保育士を求めていく。また、若い保育士であっても専門職であり、期待されている。真に経験が豊かであれば、専門職の後輩育成のうえでスーパーバイズできる力があるとか、コーチングやファシリテーションができるとか、そういう力を発揮して、保育の質向上のための役割を担ってほしい。